

vol. 55

開学20周年

QOL

Quality Of Life

QOL サポーター 新潟



02 「特集1」新入生へのメッセージ 学長／副学長挨拶

04 「特集2」開学20周年特別企画 1期生×20期生による対談

06 学生会紹介

07 クラブ・サークル紹介

08 「くらしサイエンス」生活における手の役割とは？

10 キャンパスニュース



新潟医療福祉大学 広報誌 QOL サポーター 新潟
Vol.55 2021年4月5日発行



新潟市北区島見町1398番地 TEL: 025-12571445(代)
https://www.nuhw.ac.jp
【入試事務室】TEL: 025-12571445 E-mail: nyuusi@nuhw.ac.jp



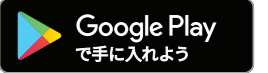
S N S I N F O R M A T I O N

NEW!



新潟医療福祉大学に公式アプリが登場!

4月1日より、本学公式アプリが登場します!学校の最新情報や入試情報などをプッシュ通知にていち早くお届けします!オープンキャンパスのお申し込みやお問い合わせも簡単になりましたので、ぜひダウンロードください。



AppleとAppleのロゴは、Apple Inc.の商標です。 Google Play およびGoogle Play ロゴは、Google LLC の商標です。

LINE



イベントや入試などの最新情報をいち早くお届け!

Twitter



学内のちょっとした話、ニュースをリアルタイムで配信!

Facebook



新潟医療福祉大学での出来事やニュースをご紹介します。

YouTube



大学紹介や学内の雰囲気を感じていただける動画が盛りだくさん。

Instagram



キャンパスの風景や学生のファッションスナップなどおしゃれ写真を配信。

TikTok



流行りの音楽に合わせて、キャンパスライフをご紹介します。

NUHW水泳部

日本選手権(オリンピック選考会)に向けて

水泳部ブログはこちら!

NUHW水泳部



水沼 尚輝 選手

新潟医療福祉大学職員
作新学院高校出身

私は新潟に来て今年で7年目になります。新潟で培った力の集大成を存分に発揮できるように頑張りたいと思います。熱い声援よろしくお願ひします!



松井 浩亮 選手

新潟医療福祉大学職員
浦和高校出身

長期間、ここに向けて練習を積んできました。本番では、ベストパフォーマンスを発揮し、決勝で派遣標準記録を突破して必ず代表権を獲得できるように頑張ります。



佐藤 綾 選手

新潟医療福祉大学職員
長野東高校出身

100m自由形で自己ベストを更新し、オリンピック出場権を獲得できるよう頑張ります。レースでは自分の泳ぎをし、嬉し泣きができればと思います。



田中 優弥 選手

健康スポーツ学科 4年
前橋育英高校出身

まずは、五輪代表権を獲得することを目標とし、その先の優勝、日本記録も見据え自分自身のベストパフォーマンスを発揮しワクワクさせるレースを披露できるよう頑張りたいと思います。



深澤 舞 選手

健康スポーツ学科 4年
黒磯南高校出身

社会人としての自覚を持ち、たくさんの方々へ元気や感動を与えられるレースをし、代表をとれるように頑張りたいと思います。

※本誌に記載のある学年は、2021年3月時点のものです。

優れた QOLサポーターを 目指そう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんを新たに新潟医療福祉大学に迎えることができ、教職員一同大変嬉しく思います。保護者の皆様にも心からお祝いを申し上げます。

2020年はコロナに明け暮れた1年でした。2021年もまた、新型コロナウイルスに翻弄されています。本学も大変大きな影響を受けてきましたが、感染防御対策を徹底しながら、その使命を果たすべく努力しています。当面は、感染の波が繰り返すと想定されますので、皆さんの安全を第一に考え、学内に感染クラスターを作らないことを目的として対応しています。コロナ疲れとか、コロナ慣れというのを耳にしますが、皆さんには常に大学全体のことを考え、本学学生として分別ある行動を取っていただくようお願いしなければなりません。自らが感染しないように、周囲の人たちに感染させないように、ガイドラインを守って慎重に行



学長 西澤正豊

動すること、これが本学学生の皆さんに求められる自覚と分別という事です。入学にあたり、これだけは肝に銘じてください。

わが国は未曾有の超高齢社会に直面していますが、その中でも健康の維持増進と健康寿命の延伸という目標を達成しなければなりません。本学はこのために欠くことのできない保健医療福祉・スポーツという分野に特化して、クライアントのQOLを支える多職種連携の専門職を育成することを第一の目標としています。サッカークラブのアルビレックス新潟を支えるサポーターに倣って、「優れたQOLサポーターの育成」というスローガンを掲げています。ちなみに本学の第二の目標は、社会の公財である大学の使命として新潟を始めた地域社会に貢献すること、第三は国際社会に貢献するために国際交流を進めることです。

本学は新潟市北区鳥見町の地に文字通りワンキャンパス、ワンチームで成り立っています。2001年に5学科、学生数321名からスタートし、今や13学科、5,000名ほどの学生、大学院生、教職員を擁する規模に発展してきました。

先ほどからQOLという言葉を使っていますが、QOL (Quality of life)とはどういう意味でしょうか。皆さんは「生活の質」というイメージを持っていますか。「生活」よりも「人生」や「命」を考えますか。これからそれぞれの学科で専門職を目指して学問に励む過程で、QOLについて、より深く考えてもらいたいと思います。ここでは二人一人がより良い生き方を目指し、自分の人生にどのように取り組むかが基本であると理解してください。車椅子を利用している人たちのQOLはそうでない人たちよりも低い、と第三者は判断してしまいがちですが、主人公は当事者なのです。本学は、当事者のQOLを高める方策を当事者とともに考え、専門職としてお手伝いができるQOLサポーターを



国際交流の 必要性

副学長(国際交流担当/強化スポーツ担当)
渡辺 敏彦



PROFILE

【専門】国際交流、職業教育
【所属等】学校法人新潟総合学園副理事長、新潟県専門学校協会会長、新潟県私立学校審議会委員、新潟県私学振興会副理事長、全国専修学校各種学校総連合会理事、全国経理教育協会副理事長、職業教育・キャリア教育財団理事、新潟日米協会会長 等

本学の人財育成目標は「優れたQOLサポーター」の育成であります。もちろん、大多数の卒業生は、この日本社会で活躍する事となりますが、現在の日本の置かれている立場は、「グローバル社会の中の日本」です。また、学芸専門分野は日本だけで独立している訳でもありません。海外の国々からの影響は無視できない訳であります。そこで、広い視野と最新の情報を得る必要があります。国際交流の必要性の一つは、そこにあります。二つ目ですが、QOLサポーターを一つのコンピュータとすると、「ハード」の部分は、前に述べた最新の知識、情報、優れた技術ですが、その「ハード」を支える「ソフト」の部分は、豊かな人間性とコミュニケーション能力だと思えます。「ソフト」の部分育てるのは、国際交流が一番早いのではないのでしょうか。お互いに言語・習慣が違う、価値観が違うことを理解することは、「優れたQOLサポーター」としての豊かな人間性とコミュニケーション力を獲得することに繋がっていくと思えます。本学では、その機会を様々に提供していきますので、ぜひ、積極的にトライして欲しいと願っています。

自分を大きく 成長させよう!

副学長(教育担当)
大山 峰生



PROFILE

【専門】ハンドセラピー、手の機能解剖、運動学
【学位】博士(障害科学)
【所属等】日本ハンドセラピー学会理事長、日本作業療法士協会、日本手外科学会、日本肘関節学会、日本臨床神経生理学会、新潟医療福祉学会

ご入学、おめでとうございます。皆さんは、ここ新潟医療福祉大学に入学されました。本学にはそれぞれの思いで入学されたことと思いますが、いずれの場合であってもこれから迎える大学生活は、友情を育み、人生について考え、人格を形成する大事な場となります。また、ほんやりと思いが描いていた目標を明確にさせ、その目標を達成するために必要な豊かな教養と専門的知識を習得する場でもあります。本学は開学以来20年の時を経て飛躍的な発展を遂げており、これらを満たす十分な環境が整っていること、他、良好な人間関係を築き上げる能力や、人と協調して物事を達成する能力、つまり連携する能力を涵養する環境もあります。

ぜひ、この学生時代に、よき友を得、種々の問題について真摯に議論し、豊かな言語能力とコミュニケーション能力を磨き、慌てずじつくりと自らを大きく成長させてほしいと願っています。そして、情報の大波に押し流されることのないよう、また一度心に決めた目標は決して短絡的な考えで変えることのないよう、各自の将来計画に則った適切な道を邁進してくれることを切望しています。

人々のQOLを 高めることに貢献する

副学長(地域連携担当/同窓会・生涯学習担当)
丸田 秋男



PROFILE

【専門】地域福祉政策、社会保障政策、児童家庭福祉、学校ソーシャルワーク
【学位】修士(地域政策学)
【所属等】日本地域政策学会理事、子ども家庭福祉学会、日本ケアマネジメント学会、日本社会福祉学会、新潟県新・総合計画策定検討委員会副座長、新潟県生涯学習審議会会長、新潟県自立支援協議会長、新潟県水保病施策推進審議会委員、新潟市社会福祉審議会委員、新潟市地域医療推進会議委員 等

本学は、開学以来20年間にわたり「地域に貢献する大学」として多くの実績を蓄積してきました。

特に、学生の役割が大きく、一期生は、学生であっても大学の所在する地域(北区の一員である。住民の一人として地域に貢献し、その活動を通じてQOLサポーターとしての自己実現を目指す」という考え方を明確にしてくれました。この考え方は、本学の地域貢献を持続的に発展させる基本になっています。

在学生は、新型コロナウィルス感染症(以下「コロナ」という)の影響が長引く中にあっても、大学の感染防止対策のルールを遵守し、地域住民の介護予防や生活困窮世帯の児童生徒の学習支援、新潟水保病の患者支援等の活動に携わっています。その姿は、コロナに立ち向かいながら、専門職としての意識・態度・行動を委容させ、人々のQOLを高めることにチャレンジしているように見えます。

新入生の皆さん! コロナの影響下に身を置くことをフランスに捉えましょう。そして、地域に貢献する大学に学ぶことを誇りにし、人々のQOLを高めることのできるQOLサポーターを目指してください。

充実した 大学生活を!

副学長(研究・産官学連携担当)
大西 秀明



PROFILE

【専門】基礎理学療法学、神経科学
【学位】博士(障害科学)
【所属等】日本理学療法士協会、日本基礎理学療法学会、日本臨床神経生理学会、日本生体磁気学会、全国大学理学療法教育学会、新潟医療福祉学会 等

COVID-19の影響による不自由な一年間を過ごしながらも、受験を乗り越え、本学に入学されたことを心より嬉しく感じています。ご入学、誠にありがとうございます。

本学は今年が開学20周年になります。多くの皆さんが生まれた年の少し前に開学したことになります。皆さんの成長に比べれば成長速度は遅いものの、本学も20年間少しずつ歩み続け、保健・医療・福祉・スポーツ領域においては全国でもトップレベルの大学にまで成長してきました。

大学は、学術の中心として高い教養と専門的能力を培い、深く真摯な探究し、これらの成果を広く社会に提供することにより社会の発展に寄与するものと定められています。この精神に則り、本学では、保健・医療・福祉・スポーツ領域にかかわる「優れたQOLサポーター」を育成することにも、関連する学術を探究し、その成果を広く社会に提供することを目的としています。意欲溢れる皆さんが、学問に専念できると同時に豊かな人間性を育めるよう全力でサポートします。

入学後も少しの間はCOVID-19の影響下で不自由な環境が続くかもしれませんが、環境に適応し、健康と安全を十分に意識しながら楽しんで大学生活を送っていただきたいと思えます。皆さんが、大学生としての自主性、自律性を意識し、充実した大学生活を送り、4年後に「優れたQOLサポーター」になつて卒業されることを願っています。

目指しているのです。

ではそのために、皆さんには何が一番大切だと思いますか。専門的な知識と技量を身につけただけでは足りません。私は当事者に共感できるかどうか、知識と技量を裏付ける「共感」という言葉が鍵になると考えます。英語ではempathyといいます。似た単語にsympathyがありますね。日本語ではこれを「同情」と訳していることが多いです。それは同情と共感はどう違うのでしょうか。皆さんには同情できる力と、共感できる力のどちらがより大切でしょうか。同情は自分の立場から相手の手をみた言葉です。なので、時に上から目線になりがちです。一方、共感とは相手の立場になって初めて生まれる感情です。「優れたQOLサポーター」になるために、皆さんに身につけていただきたいのは、言うまでもなく共感できる力です。皆さんには本学で、この共感できる力を磨いていただきたいと願っています。

本学での大学生活が実り多いものとなるよう、われわれ教職員は徹底的に皆さんの面倒を見ます。本学は以前から、面倒見の良い大学であると宣言してきました。4年間で国家資格などの資格を取得していただき、全員が就職する、あるいは大学院に進んで、より高い目標を掲げて専門職となつていただくことが目標です。皆さんの面倒をよく見るためには、教員・職員も自らのQOLを高めなければなりません。本学の学生となつた皆さんも、自らのQOLを高めながら「優れたQOLサポーター」となることを目指してください。

本稿は入学式における学長式辞を要約したものです。原文は本学ホームページの「学長メッセージ」をご覧ください。

PROFILE

【専門】臨床神経学、神経科学
【学位】博士(医学)、東京大学医学部卒業
【所属等】日本神経学会名誉会員(専門医・指導医)、日本内科学会功労会員(認定内科医・指導医)、日本神経免疫学会名誉会員、日本認知症学会代議員(専門医・指導医)、日本神経治療学会功労会員、日本神経感染症学会功労会員、日本神経化学会功労会員、日本難病医療ネットワーク学会顧問、NPO法人新潟難病医療ネットワーク理事長; American Academy of Neurology (Active Corresponding Member)

「テーマ」 福祉への想い、

この20年で変わったもの・変わらないもの

——福祉分野の仕事を目指したきっかけは？

山田 私は「人の役に立つ仕事に就きたい」と、中学生の頃に高齢者施設にボランティアに行き、福祉の仕事を知りました。そのときは「福祉Ⅱ介護」というイメージでしたが、高校で進路を決める時に、児童虐待のニュースが多く報道されていて、福祉分野がとても幅広く活躍できる仕事だということを知り、福祉の業界を目指しました。

永井 私は小学校教諭を目指して図書館で勉強している時に、医療ソーシャルワーカーの本と出会い、医療現場にも福祉の役割があることを知ったことがきっかけです。2000年に介護保険制度が始まったこともあり、当時は福祉といえば「高齢者福祉」という認識でしたが、「福祉だけでなく医療、医療だけと福祉の領域があるのか」と、関連する本を読むようになり、「こんなところで働きたい」と。それまでは退院調整や各種制度への繋ぎは、看護師が行っていたかと思いますが、その役割を社会福祉士が担うということが徐々に認

知され始めた頃だったと思います。翌年新潟医療福祉大学が開学と知って、この大学に進学しました。山田さんは、大学に入られる前や、今、「福祉」のイメージはいかがでしたか。

山田 小中学生のころは、やはり福祉といえば介護というイメージが強かったです。今は児童福祉分野のことも知って、将来は児童厚生一級指導員という資格などを取得して、子どもの福祉で活躍できたらと思っています。

——入学後の大学での学びは、いかがでしたか？

永井 当時はまだ5学科で、1期生のときは、大学も閑散としていて、食堂が満席になることもありませんでした(笑)。1期生だったので、やっぱり下の人たちが入って来たいと思える大学を作っていました。山田 私は新型コロナウィルスの影響で、まだ本場の大学生活を理解しきれないいかもしれません。

ただ、講義に関しては、1年次から福祉に関する専門的な知識を学んでいくのか

と思っていたら、「日常の当たり前を見直していく、例えば左利きの方のちよつとした不便さを見つけよう」というような講義から始まったことが意外でした。自分は気にしていなかった当たり前を見つめ直す、そういう講義や心理学を学んでいくと、ドラマやアニメの登場人物の行動に対しても理解が深まり、すごく面白いと思うようになりました。

永井 私も入学当初は社会福祉に対して、高齢者や子ども、障害のある方、また経済的に困窮している人など、社会的にサポートが必要な方への支援というイメージでした。しかし、大学で学ぶ中で、そのイメージは少しずつ変化していったように思います。「社会的なハンディキャップのある方への支援は間違っていないのですが、この対応に向かう姿勢として「誰しもが対等にあるべき存在」であり「支援をするされるにとどまるものではない」と、つまり「人間が本来得られるべき最善の利益や幸福をどの人にも実現すること」と認識が変わっていききました。

このように感じたのは、2年次の高齢者施設での現場実習で、元気な高齢者の方が多く、どんな支援をしたらよいのかと迷っ

た時です。その時、どこか「支援をする」という上から目線のおごりがあったのではないかと気づけたのだと思います。山田 新潟医療福祉大学には「連携総合ゼミ」という、様々な学科の学生がチームになって問題解決にあたるカリキュラムがあります。20年前はこんな感じでしたか？

永井 当時も1年生のときからゼミがあり、これはこの大学の特色ですよね。1年次からグループ学習をするというのは、すごい取り組みですね。今思い返すと、当時はチーム医療を学ぶことはもとより、学科を超えて様々な人と友達になれたなど、山田 今年も、新型コロナウィルスの影響もあり、連携ゼミはこれからです。やはり新潟医療福祉大学の特徴なので、すごく興味があります。例年、海外の大学も交えたチーム編成で行われる「連携総合ゼミ発表会」では、英語で発表するチームもあると聞いていますし、実際にあった問題に対して自分たちがどんなふうに解決に向けてアプローチしているのか、今から楽しみです。

二ヶーションをとる力、相手との信頼関係を築く力を持つことだと思います。相談場面では、人の話を聞くところから始まります。どんな相談であつても常に冷静であり続けることが大切です。こうした対応が、相手との良好なコミュニケーションに繋がります。信頼関係を築く第一歩となります。そのためには、まず自分が自分自身を知ることが重要です。自分がどんな性格で、どんな特徴があつて、どんなことに喜び、どんなことに苦しさを感じ、どんなときに怒りを覚えるのか。こうした自分自身への理解が、相談場面において冷静さを保ち、良好な相談関係の構築に繋がると思っていますし、それがあつてこそ「寄り添う姿勢を常に持ち続ける」ことができる、これが福祉の人材に求められる資質ではないかと思っています。山田 現場の方から直接お聞きすると、すこいですね。現在の新潟県中央福祉相談センターは、どんな様子ですか？

永井 今、私のいる児童相談所は、虐待の通報で緊急的に介入し、一時保護により子どもの安全を確保する場面もありますし、保護者や学校等からの相談に対応する場面もあります。その相談内容は、児童虐待に関わらず、子どもの発達相談や非行相談など多岐に渡り、件数もとても多いです。相談を受ける中で、子どもに障害や多動傾向があつて親の話をなかなか聞けないとか、子どものこだわりが強すぎるのか、生まれたばかりの子どもの夜寝ないで親が寝不足になるとか。そうした状況から育児が手につかない、強く叱責してしまう、手が出てしまうといった状況になってしまつたということがほとんどです。困っている保護者が気軽に相談できて、困りごとが可視化されれば、「うちだけじゃないんだ」と支援が繋がっていきますよね。「きつと、うちだけだろうな」と孤立しないように、子どもからも保護者からも丁寧に話を聞いて、公的なものから民間のものまで支援

を繋げていくことが児童相談所の業務の一つになります。保育所や学校、市町村子ども担当に加え、放課後児童クラブ、児童発達支援センターや病院のソーシャルワーカーなど、子どもを含めた家庭への支援ができるあらゆる機関と連携を図っています。

山田 ありがとうございます。今しかない、貴重な4年間を過ごしていきたいです。そしてこの先の大学を作っていければと思います。



20期生:新潟県 三条東高校出身
社会福祉学科 山田 杏

社会福祉学科1年生。卒業後は、地域や児童に関わる仕事をしたいと考えている。



1期生:新潟県中央福祉相談センター
企画指導課 主任 永井 丈史

2004年卒業の1期生。新潟県中央福祉相談センターで児童相談所児童福祉司として勤務。2008年に新潟県に入職、上越・佐渡・村上地域で精神保健福祉相談員を経験。その後、長岡児童・障害者相談センターで児童相談所児童福祉司として勤務し、現職に至る。



学友会紹介

学友会の活動はどんなことをするのか？

文化活動やスポーツ活動、そして地域活動などを通じて、学生同士の親睦、地域との交流を図り、学生の皆さんがより良い学生生活を送れるように日々活動しています。具体的な活動は「伍桃祭(大学祭)」「スポーツ大会」などの大学行事企画・運営、部活動の支援、学内の美化活動など多岐に渡ります。

学友会とは？



● 桃迎会(新入生歓迎会)
新1年生を対象にクラブ・サークルを紹介する新入生歓迎会。パフォーマンスや各ブースでの活動紹介などを行います。



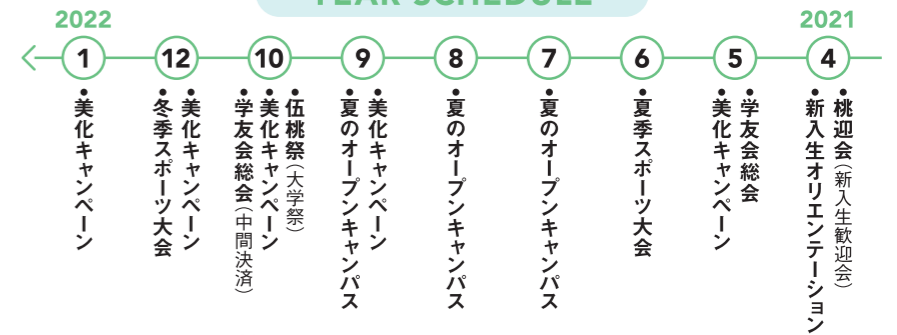
● 伍桃祭(大学祭)
模擬店やクラブ・サークルパフォーマンスをはじめ、有名アーティストやお笑い芸人を招いたライブなど様々なイベントを開催します!



● スポーツ大会
年に2回スポーツ大会の開催を予定。本学学生であれば誰でも参加可能なため、スポーツを通じて学科・学年を越えての交流ができます。



YEAR SCHEDULE



※スケジュールは変更となる場合がございます。

新2年生の加入も大歓迎!
学友会メンバー大募集!!

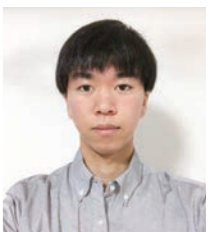
(お問い合わせメール)
gakuyuu@nuhw.ac.jp

フレッシュな1年生を大募集しています! 興味のある人はお気軽にご連絡ください。また、学友会の公式Twitterでは日々の活動報告を配信中! フォロワーもお待ちしております!

公式Twitter
@gkykai_nuhw



学友会会長紹介



理学療法学科 2年
本山 雅大
新潟県 高田高校出身

学友会に入ろうと思ったきっかけや印象に残っている出来事、学友会に入って良かったことなどを教えてください。

私が学友会に入ろうと思ったきっかけは、高校で生徒会などに入っておらず、イベントや行事などの企画運営をしていくような機会を得ることができなかったからです。昔からそのような組織に入っていたので、学友会に携わりたいと思っていました。だから、この大学で様々な企画や運営をして、そこで多くの人たちと関わりたいという学友会に所属することに決めました。印象に残っている行事は、「伍桃祭(大学祭)」です。学友会で様々な企画を考え運営し、無事成功に終わった伍桃祭は良いイベントだったと思います。特に多くの人々が伍桃祭に関わり、参加したからこそ楽しく盛り上がる伍桃祭になったのだと運営をしていく中で感じました。人との繋がりは大きな力になると分かったことは学友会に入ってからこのことの一つです。また、他学科、他学年の学生とも交流ができるので、普段の大学生活では絶対にできない経験ができたと思います。

大学の新しい経験や出会いがたくさんできる場所です。勉強はもちろんですが、趣味や遊び、クラブサークルなど、様々なことに積極的に挑戦してください。将来のために自分自身を磨くとともに、大学生活を目標一杯楽しんでください。

軟式野球部に入ろうと思ったきっかけや、印象に残っている出来事、今後の目標などを教えてください。

入部したきっかけは、小さいころから続けてきた野球を大学でも続けていきたいと思ったからです。実際に、部活動を体験してみると部活動の雰囲気が良かったのも魅力の一つでした。1年次の春、秋のリーグ戦で優勝し、全国大会、東日本大会の出場を決めたことや、一方、全国大会や東日本大会で負けたことで、勝つことの楽しさや負けることの悔しさを味わうことができました。また、軟式野球部に入部したことで県外出身である自分にも友だちが増え、対戦する相手の選手やスタッフとも仲良くなることができました。

今後のチームの目標は、全国大会で優勝することです。また、個人としては大学軟式野球日本代表を目指しています。

目標に向かって日々の練習の強度を今よりさらに上げ、かつ楽しんで勝てる野球をしていきたいです。

新入生にメッセージをお願いします。

軟式野球部では選手・マネージャーを募集しています。楽しく野球をやりたい人、勝つ野球をしたい人はぜひ見学や体験に来てみてください。そして、ともに全国の頂点を目指しましょう!



部長紹介

健康スポーツ学科 2年
渡邊 尚也
秋田県 秋田中央高校出身

クラブ・サークル紹介

大学生活をより楽しいものにしてくれるクラブ・サークル活動。60以上あるクラブ・サークルの中から、今回は2つの部活動を紹介します!

e-sportsサークル



- 活動内容 / e-sports
- 活動目的 / e-sportsを通して親睦を深めるとともに、サークルメンバー内から国内大会への輩出を目指す
- 活動人数 / 14名
- 活動日 / 不定期
- 活動場所 / 主にT棟201教室

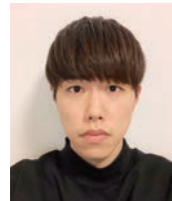
軟式野球部



- 活動内容 / 練習、練習試合、リーグ戦、公式大会(全国、東日本等)
- 活動目的 / 楽しんで野球をすること&全国大会優勝!
- 活動人数 / 30名
- 活動日 / シーズン中 月・水・金 18時~20時 土日 リーグ戦・練習試合
シーズンオフ 火・木 18時~20時
- 活動場所 / シーズン中 平日練習 新潟市北区野球場(湯川球場、豊栄南球場、木崎球場)
土日(試合)主に新潟市各球場
シーズンオフ 豊栄南球場室内練習場、学校体育館

(実績等)

- ・2018年度全日本大学軟式野球選手権大会3位
- ・2018年度東日本大学軟式野球選手権大会3位
- ・2019年度全日本大学軟式野球選手権大会ベスト16
- ・2019年度東日本大学軟式野球選手権大会ベスト16
- ・2020年度新潟地区大学軟式野球独自大会 優勝



サークル長紹介

診療放射線学科 3年
峯村 諒
長野県 松本第一高校出身

e-sportsサークルに入ろうと思ったきっかけや、印象に残っている出来事、今後の目標などを教えてください。

最初は友人の家でゲームを楽しんでいましたが、徐々にメンバーも増えていき、大学内で小さな大会を開こうと考え「e-sportsサークル」を設立しました。

印象に残っているのは、大学内の教室を借り小さな大会を開いたことです。サークルメンバーとはもちろんのこと、参加してくれた他学科の学生とも親睦を深めることができ、大画面で行った迫力のあるe-sportsに皆心躍りました。

他にも、タイの留学生とゲームを通して国際的な繋がりを感じられました。英語が苦手なメンバーも多く、最初はなかなかコミュニケーションが取れなかったのですが、ゲームを通して言語の壁を感じることなく、親睦を深めることができました。

今後は国内大会への輩出を目標に活動していきたいです。そのために大学内でより大きな大会を開き、多くの人に参加してもらうことで切磋琢磨しあえる環境を作っていきたいと思います。

新入生にメッセージをお願いします。

e-sportsサークルは不定期で活動しています。行うゲームのジャンルも様々で、メンバー内で話しあって活動日や活動内容を決めています。ゲームが好きな方、他学科の学生との親睦を深めたい方など、サークルへの参加お待ちしております!

その他クラブ・サークル

強化指定クラブ

- 水泳部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- 陸上競技部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- テニス部(男子・女子)
- ダンス部

硬式野球部

- 卓球部
- ソフトボール部
- 軟式野球部
- 卓球部
- バドミントン部
- 剣道部
- フットサル部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部

体育系クラブ

- バドミントン部
- 手話部
- 写真部
- Spring Board部
- 軽音楽部

アスレティックトレーナー部

- よさこい部 舞桃会 など
- 園芸部
- 茶道部
- 和太鼓部
- VICON部
- 手話部
- 写真部
- Spring Board部
- 軽音楽部

文化系クラブ

- 和太鼓部
- VICON部
- 手話部
- 写真部
- Spring Board部
- 軽音楽部

栄養サポート部

- 細胞研究会 など
- ボランティア系クラブ
- レクア.コム部
- 学生kids部
- ピアエデュケーション部
- さびず ~20歳からの子宮頸がん予防~
- 空飛ぶ車いすサークル など

サークル

- ソフトテニスサークル
- タッチラグビーサークル
- ダンスサークルRIIZE
- K-POPダンスサークル おるんちゅっ
- バスケット部
- 救急救命サークル -LIFE-
- メディカルサポートサークル
- 模型サークル
- 寺100サークル
- CSP(就職活動支援)

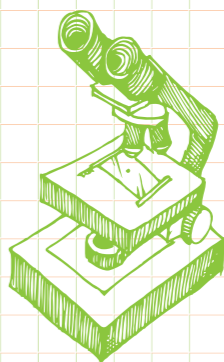
桃弓会(弓道サークル)

- NUHWアルビレックスプロジェクト
- カードゲーム同好会
- 音楽サークル Music Studio
- ビジョンサポートサークル
- e-sportsサークル
- 救命技術研究会 など

くらしサイエンス

テーマ

生活における手の役割とは？



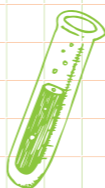
作業療学科
藤目 智博 助教

手の役割とは？

人は生活の中で多くの活動を行います。食事や排泄、入浴などの日常生活活動、家事、仕事、趣味、遊び、対人交流、休養などの生活行為そのものや、それを行うのに必要不可欠な心身の活動を「作業」と呼びます。そして、「人は作業を通して健康や幸福になる」という基本理念と学術的根拠の下に「作業療法」を行います。そして、この「作業」に深く関わるのが「手」です。

人体の中で、手ほど多様な役割を担う器官はありません。「握る」「摘まむ」「押す」にはじまり、「払う」「抜く」「拝む」「指す」「打つ」「折る」「投げる」など、手への漢字を思い浮かべるとその多様性がよく分かります。200kg以上のバールを担ぐパワーリフティングの選手、0.1mm以下の凹凸を触るだけで感知できる板金職人、手の平だけでお米の重さが分かる寿司職人など、卓越した技術を持った人もいれば、母親に抱き着く赤ちゃんの手も、赤ちゃんをあやす母親の手も、とても同じ器官とは思えません。それだけ、手はその人にとって特別な役割があるといえます。

$$S_x = \frac{U^2 \sin^2 \theta}{g} + \frac{U^2}{g} 2 \sin \theta \cos \theta$$



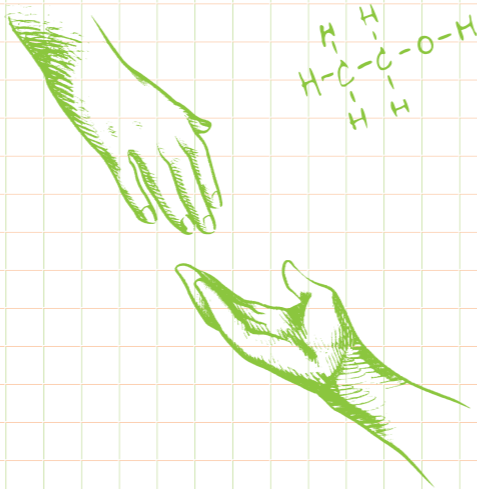
手が使えなくなったらどうなるの？

病気や怪我によって手が使えなくなる人は少なくありません。「一時的なものから生涯続くものまで様々です。手が使えなくなるということは、前述した「作業」ができなくなる、その人にとっての「手」の役割が担えなくなることを意味します。その人らしい生活ができなくなる、という少し大げさかもしれませんが、様々な場面で不自由さを感じるようになります。例えば、親指を失うと、手の持つ機能の約40%が失われると言われていました。ボタンが留められない、お箸を持たない、字が書けない、財布からお金を出せない、ドライバーを回せないといった日常生活の場面、人によってはスポーツや楽器演奏などの楽しみも失うこととなります。また、まだ首の座っていない赤ちゃんを抱くこともできなくなれば、母親としての「役割」を失うこともあります。人によって手の持つ「役割」が異なれば、失うものも人それぞれということになります。

生活を見据えた手のリハビリテーション

作業療法士によるリハビリテーション

まず、失われた機能を取り戻すことを考えます。具体的には硬くなった関節を動かし、弱くなった筋力を強化し、より細かい運動や、複雑な活動ができるようにリハビリテーションを行います。一方ですべての患者さんが元通りになるわけではありません。極端ですが、事故などで完全に失われた指をリハビリテーションで取り戻すことはできません。しかし、我々作業療法士は、「作業」を獲得することが最重要だと考えます。その人がどのような作業を行い、役割を担っていたのかを聞き出し、例えば失われた機能がなかったとしても、方法を変え、道具を変え、環境を変え、様々な工夫を通じて、その人らしい「作業」へ戻すことが最大の目的です。



手は作業



リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合による先端的研究拠点

— Sports & Health for All in Niigata —

理学療法学科横田裕丈助教の研究論文が国際誌『Neuroscience Letters』に掲載されました！

高次の知覚機能の評価指標である空間的二点識別覚は、加齢や中枢神経疾患、慢性疼痛患者において低下していることが知られています。一方で、一定時間の触覚刺激や電気刺激により二点識別覚が向上することも報告されています。この二点識別覚において、末梢の感覚受容器の活動や、末梢や脳内での抑制機構、および高次の認知段階における処理などの関与が示唆されています。しかしながら、複雑なメカニズムのために測定時の刺激ピンを当てる強さにより変動してしまう可能性が指摘されており、感覚検査の指標としての信頼性が疑問視されています。

理学療法学科井上達朗講師の研究論文が国際誌『European Geriatric Medicine』に掲載されました！

近年、胃切除術を受ける高齢者が増加しています。我々はDPCデータ※を使用し、根治的胃切除を行った高齢者の術前BMI（体格指数）が術後の日常生活動作能力、合併症発症、在院日数に与える影響を分析しました。その結果、術前に「低体重」の高齢者は術後の日常生活動作能力が低いことがわかりました。一方で、術前「肥満」の高齢者は、術後に合併症を発症しやすく、在院日数が長いことがこの研究から明らかになりました。

《横田助教からのコメント》

これまで広く用いられていた二点識別覚ですが、感覚機能の評価指標として用いることに対して否定的な意見も多くありました。その要因として、脳で認知されるまでの複雑なメカニズムや、検査者が異なることで得られる結果に差が生じることなどが挙げられます。本研究では、これまで測定値の差異を生じる可能性が指

《井上講師からのコメント》

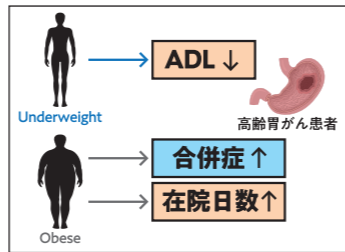
我々は全国の病院から収集されたDPCデータ※をもとに、胃切除を行った高齢者の体格が術後経過に与える影響を分析しました。本研究結果から、日常生活動作能力に関しては、太っている方が機能予後が良いという「肥満パラドックス」を示唆する結果となりました。一方で、肥満は術後合併症や在院日数に悪影響を与えていました。今後は術前の体格に着目したプレリハビリテーション（手術前のリハビリテーション）が重要であると考えています。



理学療法学科 横田 裕丈 助教



理学療法学科 井上 達朗 講師



胃切除術前に「低体重」の高齢者は術後の日常生活動作能力が低い。一方で、術前に「肥満」の高齢者は、術後に合併症を発症しやすく、在院日数が長い。

摘されてきた測定刺激の速度と深さをコンピュータ制御することで、繰り返し測定においても高い信頼性のある安定した結果の得られる二点識別覚測定方法を確立することができました。本研究により得られた二点識別覚検査方法を用いることで、介入効果を正確に示すことが可能になると考えられ、今後二点識別覚を効果的に向上させる介入方法の開発が期待できます。

摘されてきた測定刺激の速度と深さをコンピュータ制御することで、繰り返し測定においても高い信頼性のある安定した結果の得られる二点識別覚測定方法を確立することができました。本研究により得られた二点識別覚検査方法を用いることで、介入効果を正確に示すことが可能になると考えられ、今後二点識別覚を効果的に向上させる介入方法の開発が期待できます。

SHAINプロジェクトとは 文部科学省 平成29年度 私立大学研究ブランディング事業の選定プロジェクトの通称。リハビリテーション科学とスポーツ科学の融合により「Sports & Health for All in Niigata (SHAIN)」=地域住民からアスリートまですべての人が安全にスポーツを楽しみ、幸せな生涯を過ごす新潟県」の創出を目指します。



CAMPUS NEWS

キャンパスニュース ホットで旬なニュースをお届け!

【水泳部】ジャパンオープンで7名の選手が入賞!

2021年2月4日(木)〜7日(日)に、東京アクアティクスセンターにて行われた「ジャパンオープン2020」に本学水泳部から11名の選手が出場し、7名の選手が入賞という結果を残すことができました。

男子50mバタフライでは、田中優弥選手(健康スポーツ学科4年)が学生タイ記録の23秒35で優勝、水沼尚輝選手(本学職員)が男子50mバタフライ、男子100mバタフライとともに2位、松井浩亮選手(本学職員)が男子50m自由形で2位に入賞するなど、上位入賞者も多数輩出することができました。



田中 優弥 選手



水沼 尚輝 選手

【速く泳ぐ技術を科学的に解明!】健康スポーツ学科教員2名の「競泳競技」に関する研究論文が国際誌に受理されました!



健康スポーツ学科 池田 祐介 准教授



健康スポーツ学科 奈良 梨央 助教

池田祐介准教授の研究論文が「Journal of Sports Sciences」に掲載されました!

本研究では体幹部の動きを上腕と下腕に分け、泳速度によって動作の期分けを行うことにより、泳速度の高い選手ほど、加速局面と減速局面における下腕の動きが大きいことが明らかになりました。また、下腕の動きは、推進力を生み出すと考えられる下腿部と足部の動きと密接に関連しており、下腕の動きがドルフィンキック動作における「しなり」を生み出したことが示されました。

奈良梨央助教の研究論文が「Sports Biomechanics」に掲載されました。

本研究では、競泳の背泳ぎスタート合図後から足が離れるまでの動き(股関節と膝関節の伸展のタイミング)に着目し、バックストロークレッグ(足かけ)を使用した際、下肢関節伸展のタイミングの違いにより、パフォーマンス(5m通過タイムなど)にどのような影響があるかを検討しました。その結果、股関節を先に伸展した後に膝関節を伸展する動作を行うことで、跳び出した後、アーチ姿勢が取りやすくなり一点入水がしやすくなるということが明らかになりました。そのようなスタート技術のおかげで、5m通過時間が短縮されることがわかりました。

文部科学省科学研究費採択件数で、本学が全国第4位となりました!

2020年12月に文部科学省が発表した「2020年度科学研究費採択件数」において、「スポーツ科学、体育、健康科学、およびその関連分野(リハビリテーション科学を含む)」で新潟医療福祉大学が全国第4位となりました(私立大学では全国第2位)。

本学は、全国でも数少ない保健・医療・福祉・スポーツの6学部13学科を有する総合大学として20種類以上の専門職を養成する教育カリキュラムを配置しています。

運動機能医科学研究所やトップアスリートおよび指導者を育成する強化指定クラブ、アスリートサポート研究を推進するアスリートサポート研究センターなどを設置し、リハビリテーション科学およびスポーツ科学を基盤とした、特色ある教育・研究・地域貢献活動を実践しています。

スポーツ科学、体育、健康科学およびその関連分野

順位	機関種別名	機関名	新規採択累計数(件)	配分額(直接経費)(千円)	応募件数累計数(件)
1	国立大学	筑波大学	106.0	251,700	312.0
2	私立大学	順天堂大学	85.0	150,100	214.0
3	国立大学	東京大学	79.0	236,400	147.0
4	私立大学	新潟医療福祉大学	66.0	143,700	161.0
5	私立大学	早稲田大学	60.0	143,600	142.0
6	国立大学	東北大学	46.0	104,700	98.0
6	国立大学	京都大学	46.0	119,300	84.0
8	国立大学	大阪大学	40.0	111,500	84.0
9	国立大学	広島大学	39.0	72,900	115.0
10	国立大学	徳島大学	38.0	80,100	90.0

※過去3年間の新規採択の累計数(文部科学省HP「令和2年度科学研究費助成事業の配分について」参照)

今後も、保健・医療・福祉・スポーツ分野の発展に貢献する研究と研究成果を広く世界へ発信することに積極的に取り組んでまいります。

福井県鯖江市との連携事業として子どもの眼の健康増進を目指した「眼を大切にしよう講習会」を実施しました!

本学は日本一の眼鏡産地の福井県鯖江市と連携し、シニアプロモーション事業の一環として、子どもの視力不良の早期発見や眼の健康増進する「眼を大切にしようプロジェクト」を2019年度から開始しています。2020年度はコロナ禍の中で、Zoomでのオンラインによる講習会を鯖江市内の5つの保育所幼稚園の園児を対象に実施しました。

講習の内容は、本学視能科学科の教員と学生が中心となって企画し、目の大切さを伝える紙芝居、歌に合わせた目の健康体操や、視覚情報処理能力を鍛えるカードゲームを行いました。このような遊びは、スマホゲームとは異なり、目に飛び込んでくる映像をじっくりと見続けるだけではなく、目を動かし思考も働かせることから視覚機能の未熟な幼児の眼育あそびとして推奨されています。

近年、裸眼視力1.0未満の子どもの割合が高くなっています。その原因のひとつとして、幼いころからスマホやテレビに接していること、さらにスマホゲームでの目の酷使が指摘されています。昨今の新型コロナウイルス蔓延による新しい生活様式で外遊びの時間の減少も加わり、子どもたちの視覚環境は大きく変化しています。生活習慣の見直しという視点からも日常生活の中で眼育を取り入れる工夫を推進していきたいと考えています。